

第8回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日 時	令和6年9月3日(火) 9:45~11:45
会 場	アーバンネット仙台中央ビル 4階 カンファレンスA・B
議 題	1. 開会 2. これまでの振り返り 3. 将来ビジョン骨子案について 4. 今後のスケジュール 5. その他 6. 意見交換 7. 閉会

配布資料	本日の座席表 資料1 これまでの振り返り 資料2 将来ビジョンの骨子案 資料3 今後のスケジュール 資料4 前回協議会で寄せられた意見に関する各種データ 資料5 コミュニティ（人材の発掘、コミュニティ育成について）
------	--

○主な意見等

(委員意見)

- ・ 【資料2】P19以降の「エリアへの想い」「今後に向けて」の内容について、異論はない。実現を図ってほしい。
- ・ 実現を図るには、今の時代スピード感が重要。どのように突破していくか実現に向けてリードして頂きたい。
- ・ 【資料4】には、札幌、さいたま、広島、福岡のデータが掲載されている。昨年秋から今年の春にかけて、大阪、神戸、福岡、岡山、新潟、札幌の駅前を中心に見てきた。以前と比べ、それぞれ駅前の姿が変化しており、印象的であった。
- ・ 都市の産業構造はそれぞれ違う。この違いが駅前の表情の違いに繋がっている。仙台としても駅前の表情を作る中で、取り組んでいることが数字で表現できないかと考える。わかりやすい数値目標としては人口等が考えられるが、駅前の数値目標としては大きすぎるかもしれない。数値目標があると具体化が進みやすいのではないかと。

(委員意見)

- ・ 【資料2】P19について、「まちあわせ場所」に限定する必要はないのではないかと。一般的に連想される「待ち合わせ場所」以上の意味合いが含まれていると認識しているが、市民の方が見たときに深い意味までは考えずに、表面的に捉えることが想定され、誤解を招く可能性がある。少し言葉を工夫した方がよいのではないかと。

- ・ 「これぞ仙台の顔」よりも、「これぞ杜の都」の方が伝わりやすいのでは。もう少し表現を検討して頂きたい。

(委員意見)

- ・ 【資料2】P19について、「まちあわせ」は人と人が会うというのと、まちに会うというのがかけられていると認識している。「まち会う 合わせ場所」とするか、全く別の表現とするかは検討が必要だが、重要な点であると考えため、表現については今一度検討頂きたい。
- ・ 「表情を育てる」という表現は、大きなポイントになる。将来ビジョンの中で、表情をどういうものとして捉えて、どのようなものにしたいのか明確になっていない。表情とは一体何なのか、読んでいる人に伝わるようにした方が良い。
- ・ 全体の印象として、一つ一つの要素は非常に整理されていると感じる。それに加えて、「グラデーション・ポジティブ」は、通常であれば形容詞の後に名詞が来るようにするものだがそうではなく、新しい言葉を作られていて「普通じゃないな、面白いな」と感じる。
- ・ 一つ一つは面白く、よく考えられていると感じるが、一つ一つの要素がどのような位置づけで将来ビジョンの中に組み込まれているのかをもう少しわかりやすくできると良い。

(委員意見)

- ・ 「仙台の顔」という言葉は、コーポレートアイデンティティのようなイメージ戦略の一環として仙台市が主導して考えているものだと思っていた。
- ・ 現状、駅前には器ができていない、中身が無いものについて「仙台の顔」といわれても困るのでは。
- ・ 仙台市がリーダーシップをとって駅前の顔を検討しているということが市民の方々にあまり伝わっていないのではないかと感じる。
- ・ もう少し、仙台市が前面に立って活動していることを市民にアピールしても良いのではないかと考える。
- ・ 仙台駅東口のまちづくりについては、仙台市はどの程度関与しているのか気になる。
- ・ 西口のまちづくりを仙台市がもっとリーダーシップをとって、関与していてもいいのではないかと感じている。

(事務局回答)

- ・ 東口については、地元の地権者で構成されているまちづくり協議会があり、そこが主体的に計画を立て、それに基づき事業等を実施している。
- ・ 仙台市としては、都心まちづくり課の公民連携係という協議会を支援する係がバックアップするような形で関与しているが、仙台市が主として進めているわけではない。その中で助成金も少し使いながらまちづくりを進めている状況。
- ・ 西口の取組みとしては、当初、青葉通の整備と沿道開発が同時期に進むような機運が

高まっていたため、東口と同様の形でまちづくりをお手伝いできればと思っていた。
しかし、なかなか事業が進んでおらず、お手伝いができていない状況である。

- ・ 今後も西口のまちづくりについては、積極的に関わりながら進めていきたいと考えている。

(委員意見)

- ・ 将来ビジョン検討事務局としても、「まちあわせ」をはじめとする様々な言葉については精査中である。
- ・ 「まちあわせ」という言葉を用いた経緯を説明する。青葉通駅前エリアにおける社会実験の結果を踏まえ、居心地の良い空間が求められていることが分かった。そのような中で、現状の仙台を見たときに、仙台駅のステンドグラス前のせわしない中で待ち合わせをしているのが印象に残った。もう少し落ち着いて、和やかな表情で待てる場所が作れたらと考えた。また、駅前の特徴を考えたときに、現状はバス待ち空間であり交通面との連携を併せて考える必要があった。そして、仙台市内の回遊性を高めていく上での起点となるところから、人と人が約束をして、その後それぞれの目的地へ向かう「まちあわせ」という言葉につながった。加えて、まちあわせ場所にすることで、人が必然的に集まるので偶発的な出会いの場となり、コミュニケーションを生むのではないかと考えた。

(委員意見)

- ・ 各委員の意見を聞いていて、前提として共通認識を持つ必要がある中で今後、市の広報等で「仙台の顔」や「まちあわせ場所」という端的な言葉だけが公表された際に目立つ表現となれば違和感が出てしまうのだろうなと感じた。
- ・ 前回までの資料を見返し、共通テーマとして居心地よく人が集えることは揺るがないことである。気軽に人に寄ってもらい、人が集まれ、先々まちあわせ場所になれば良いと考える。
- ・ 事務局から説明があったように、今の若い学生の青葉通や駅前のとらえ方は昔と変わってきているという認識は同感である。
- ・ 我々世代、上の世代が待ち合わせ場所としていた駅前のカッコウ時計塔前、フォーラス前は無くなってきている。交通面に配慮しつつ、自然と駅前エリアが待ち合わせ場所の空間にできると良いのかなと考える。
- ・ 表現としてはもう少し緩い表現でも良いのではないかと考える。「まちあわせ場所」と聞いたとき、複数名での出会いの場を連想する。最近では1人で歩いている人、活動している人もいることから、そのような方々が他人事になってしまうのではないかと思う。
- ・ ビジョンなので「世界に誇る」ことは当然だと思うが、仙台の控えめな地域性や市民性を考えたときには、もう少し控えめの表現でも良いと感じる。

(委員意見)

- ・ エリアの想いの表現ニュアンスについて、読み手が引っかかるような挑戦的なワードチョイスとするか否かについて、この場で決めておきたい。

(委員意見)

- ・ 私見としては、ある程度引っかかりがある方が良いのではないかと考える。
- ・ 駅前エリアは住んでいる人だけの空間ではない。東北に一箇所しかないような場所である。単に居心地のいい場所にしようということだけだと、あの場所に本当に求めなければならないことを埋もれさせてしまうのではないかと思う。
- ・ 「まちあわせ」は、まちに出会うまちあいの場がニュアンスとして近いと思うが、「私が誰と、何と出会えるのか？」など読み手に少し悩んでもらえる。
- ・ 今の若い人は待つということをしなない。スマホがあり、位置情報により誰がどこにいるのが完全にわかっている状態である。場所として待ちあうことをしていない。最近の社会は決められたことを間違いなく短時間でやる傾向にある。その中で、「まちあわせ」とはどのような意味を持つのかは、新しい「まつ」を作るといったことなのかもしれない。
- ・ 駅前の空間をイメージすると、昔の人は案内所をイメージする。今の人はどこかに訪れる際、目的地を決めてくる。仙台に降り立って、どこへ行こう？と考えることはない。そのような人に、仙台の入り口で案内をしても行動は変わらない。
- ・ そのような中で行動を変えたとしたら、帰るときに、次にもう一回来てもらえるような仕掛けをする方が効率的である。
- ・ 今まで我々が考えてきた「待つ」という行為が時代とともに変わっている。
- ・ 今の時代、計画通りに何かを進めていくことは困難。方向性だけは合意をして、失敗するかも知れないが、具体的なことをやり続けていく必要がある。間違えたらやり直せばよい。

(委員意見)

- ・ 【資料2】P19の「まちあわせ場所」よりも市民、市外来訪者、オフィスワーカー、観光客が描かれているP22のシーンの方が現状に合っている。東北学院大学が仙台駅近くに移転してきたことから、学生を主体としてシーンもあるとよい。
- ・ 【資料2】P19について、「世界に誇る表情を育てる」については素晴らしいことだと思うが、いつ実現するのかと問いたくなる。
- ・ 他の強豪都市はスピード感をもって街を改善してきている。いつまでに実現するといった年次設定はお願いしたい。

(委員意見)

- ・ 駅前が「仙台の顔」であることは間違いがないが、「東北の顔」でもある。東北を代表する空間を作るといった視野で考えてほしい。

(委員意見)

- ・ 通常、市から相談事を国にするととき市、県、国という流れになると認識している。一方で、仙台市は政令指定都市であることから、市から国に直接沿道開発について相談できるのではないかと考える。そうであれば、現状、仙台市から国へ直接相談をしているのかをお聞きしたい。
- ・ 平成初期の新聞を遡ると、駅前のある方について多くの議論がされていたことが分かった。当時から駅前のことを考え、駅前をどうにかしたいという気持ちがあったのだなと感じた。今後ともこのエリアをよろしく願いたい。

(事務局回答)

- ・ 仙台市と国との関係性について、最近では県を挟まないで国と協議することもある。
- ・ 沿道開発については個別の話になるため、ここでは控えさせていただく。

(委員意見)

- ・ 歩行者交通量調査が毎年5月の第3金曜日、第3日曜日に実施されている。ここ数年間はコロナの影響で交通量が落ちていたが、最近では回復傾向であり、去年はコロナ前の8割5分にまで人通りが戻っていた。その結果を受け、今年もコロナ前の数値に戻っているのではないかと期待していたが、結果を見ると地点によっては去年より減少しており、唯一増加しているのが東西自由通路であった。これはヨドバシ第一ビルの影響が大きいと思われる。この結果にショックを受けていた。
- ・ この結果をみると、西口は閉塞感があり、鮮度が落ちているのではと感じた。
- ・ 来年また歩行者交通量調査をしたとき、さらに交通量が減少する可能性がある。
- ・ まちづくりは特定のエリアだけで考えるわけではなく、エリア全体で考える必要があると考える。拠点としては、定禅寺通と駅前という対角の線のまちづくりをどうしていくかによって、どう回遊させていくかということにつながると思う。
- ・ 駅前の最大の役割は経済の中心となることだと思う。駅前の経済が活発化しないと仙台の経済が苦しくなるのではと考える。人への優しさ等は含めるとして、経済が活性化するようなフレーズを検討いただきたい。
- ・ まちづくりに関して東京を中心に意識的に街を見るようにしている。鶏が先か卵が先かの議論にはなるが、まちづくりには、「どういう施設があるから、どういう人が集まって、そこをどういう地域にするのか？」という考え方と、意図的に「こういう地域にしたいから、こういう施設を作って、こういう人を集めよう」とする2種類があると感じる。例えば、渋谷はパルコができた際はトレンドイな街となり、若者と大人の街であったが、渋谷109ができて一気に若者の街になった。現在は若者の街化が進み治安が厳しくなっており、大人の街に戻そうという流れでまちづくりが動いていると聞いた。
- ・ 仙台駅前も、ターゲットを考え、そのうえでどのような空間とするのかを考える必要がある。

(委員意見)

- ・ グラデーション・ポジティブはよく考えられた言葉だと思う。今の時代からするとダイバーシティという表現もあると考えるが、これだと飛び跳ねているだけでつながりが無い印象。グラデーションとすることにつながりの中で色々なものを認めていきましょう、つながりを発見して、色々な事が活かされる場にしていきましょうと捉えられ、良い表現であると思う。
- ・ 「エリアへの想い」については、尖った表現で進めてもいいのではないかと思う。埋没しないようにそういったテイストで進めていきましょう。

以上